

第 5 回岡谷小学校のあり方検討委員会 会議録（要旨）

1 日時

平成 25 年 10 月 28 日（月）午後 7 時～午後 10 時

2 場所

岡谷市役所 6 階 605 会議室

3 出席者

委員 原豪志委員、林裕一委員、宮崎勇委員、三村田卓委員、藤森眞由美委員、林幸三委員、小林啓助委員、薩摩林忠美委員、沓掛貴芳委員、田中沙里委員、武居崇委員、八幡義雄委員、原山智委員、森本健一委員、古本吉倫委員、岩下貞保委員（名簿順）

計 16 名（欠席者：濱一平委員、原史郎委員、荒深重徳委員）

地質調査業者 (株)長野技研

岡谷市・岡谷市教育委員会

草間吉幸教育委員長、古屋博康教育部長、河西稔建設水道部長、橋爪哲也教育担当参事、吉澤洋人教育総務課長、山本文明土木課長、古川幸男危機管理室長、山岸徹企画課長、三澤達也学校教育主幹、清水亮教育総務課主査、八幡学土木課主査、宮坂洋平教育総務課主任

○会議次第

1 開会 午後 7 時

2 議事

（事務局から会議の成立報告。続いて、委員長から本日の会議について傍聴を許可してよいかどうかを委員に諮った結果、異議なく許可することになった。）

<議事の内容>

- (1) 前回の報告等について
- (2) 保護者説明会及び市民説明会の報告について
- (3) 第 4 回までのまとめと今後の進め方について
- (4) その他

【委員長】

(1) 前回の報告等について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

前回の委員会で、「平成 12 年度からの児童生徒数の推移が分かる資料を提供していただ

きたい」との意見がありましたので、本日資料を用意しました。

【委員長】

このことについて、質問や意見はありますか。

【委員】

前回の委員会の中で、南校舎 2 階教室の補強を平成 16 年に、北校舎玄関の底の補強を平成 12 年にそれぞれ行ったとのことだった。この時に、具体的な原因の調査はしなかったのか。

【事務局】

具体的な調査はしていない。

【委員】

なぜ調査をしなかったのか。

【事務局】

その時は、現象に対する処置をしたということ。

【委員】

児童生徒数の推移を見ると、年々減少している。神明小や川岸小も今年度と比べて、H12 年や H16 年の時には、今より児童数が多かった。その当時に具体的な原因の調査を行い、対策をとらなければならなかった場合に、今回と同じように他校へ分散させる方法ができたのか。

【事務局】

もしその時に地盤の状況が判明していれば、今回と同じような検討をしなければいけなかったと思う。その時にどのような方法がとれたかということは分からない。今現在の状況の中でとれる対応をしなければいけない。

【委員】

H12 年、16 年の時には、地盤調査をしなくてもよかったということか。

【事務局】

その時にはボーリング調査は行っていない。その後で、建物の変状や敷地の状況等の変化が次第に顕著になってきたため、H23、24 年に 2 年をかけて調査を行った。

【委員】

H12、16 年はボーリング調査をしていないということか。

【事務局】

その時には行っていない。H18 年の実施設計の時に行った。

【委員長】

具体的に耐震改修が必要になったのは何年頃のことか。

【事務局】

H15 年に市内小中学校施設の耐震診断を行い、H16 年以降、順次耐震改修を実施してきた。H18 年に岡谷小の耐震改修工事のための実施設計を行ったが、豪雨災害により中断し

た。

【委員長】

他にありますか。

(なし)

次に移ります。

(2) 保護者説明会及び市民説明会の報告について

【委員長】

このことについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(10月7・8・10日に開催した「保護者説明会」及び「市民説明会」での主な説明内容と保護者、市民から出された主な意見・質疑と市の回答内容を報告。)

【委員長】

このことについて、質問や意見はありますか。

(なし)

説明会の参加人数はどのくらいか。

【事務局】

保護者説明会(10/7)82名、市民説明会(10/8)38名、市民説明会(10/10)19名。

【委員長】

次に移ります。

岡谷小のPTAの方で、岡谷小学校の今後に関するアンケートを行ったようなので、説明をお願いします。

【委員】

保護者の36%が現地存続を望んでいる。現地存続と移転を合わせると保護者の75%が岡谷小を残してほしいと思っている。22%が統合分散が望ましいと回答しているが、その中には本来は岡谷小を残してほしいと思っている人が多くいることを補足しておく。現地存続を望む保護者の70%は、ある程度の危険性を伴っても現地存続を望んでいる。また、検討してほしい移転先としては、イルフプラザおよび駐車場、駅裏、ララ岡谷、新旧岡谷病院等がある。

【委員長】

このことについて、質問・意見はありますか。

【委員】

学年別の集計はあるか。学年によって事情が異なると思う。

【委員】

学年別の集計はない。アンケート回収時の印象では、高学年の保護者は現地存続の割合が多く、低学年の保護者は分散の割合が多かったようだと聞いている。

【委員長】

説明会の参加の有無で、意見が少し変わってくるのでは。

【委員】

説明を聞いて、意見が変わるという人は少ないと思う。

【委員】

本当は現地存続を希望しているが、市の説明を聞いた結果、統合分散しかないなと記入したという傾向はあると思う。

【委員】

75%の保護者は岡谷小を残してほしいと思っている。

【委員長】

アンケートの件で他に何かありますか。

【委員】

存続を望むのは当然だと思う。ただ、現地が危険であることを承知であの場所に学校を建ててほしいという思いと、安全な場所に学校が移るなら残してほしいという思いでは、大分意味が違うのでは。

【委員】

現状を分かっていない人ほど、現地存続をつける割合が多いかもしれないが、その辺りは把握していない。移転してほしいという人は、今より安全を希望している。

【委員】

現実には危険性がある。子どもの安全を担保できるかどうか。対策工事が全部やれるかどうかはまた別の話。学校をどういう形で残せるのか、それとも残せないのか。一刻も早く新しい展開になっていかなければいけない。

【委員】

アンケート結果はP T Aの現状の希望を表している。

【委員長】

現地存続・移転・統合分散の3案を比較検討し、総合的に判断するようになると思う。これからは、新しい議論を深めていきたい。委員の方からもそういう意見がある。

【委員】

市は3択にするつもりがあるのか。その辺りでP T Aの中にいらつきがある。

【委員】

その前に、この委員会を今後どのように進めるかを説明してほしい。

【委員長】

今後は次のステップに進んでいきたい。具体的には、移転と統合分散の話にも入っていききたい。最終的には、お金がかかることなので、総合的に比較検討して、どの案がいいのかを判断していきたい。

【委員】

アンケート結果をみると、これだけ現地存続を望む人がある。市の説明を聞いてもなお、現地存続が可能ではないかと思っているということ。いくらお金をかけてでも、あの場所に岡谷小を建ててほしいと思っている。そのような保護者に対して、どのように説明するのか。

【事務局】

説明会への参加の有無によってもあると思うが、現地存続が困難だということを丁寧に説明したい。

【委員】

困難という言葉の意味が分かりにくい。やればできるけど困難なのか、やる気が無いから困難なのか。

【事務局】

遠まわしな言い方をしてしまっているが、市では無理だと判断している。

【委員】

今のままでは、仕方がないかと思うようにはならないと思う。

【事務局】

現在考えられる方法では、無理だと市では判断している。

【委員】

工事をしたとしても、工事が終わった時には児童は卒業している。大掛かりな工事が長い期間に渡ることもある。

【委員】

大掛かりな工事をすれば岡谷小が残るのなら、自分の子どもが卒業しても、現地存続を希望する人はいるのではないか。

【委員長】

現地存続は置いておいて、これからは他の2案を検討して、最後に3案で比較検討し、総合判断していきたい。

【委員】

そのような進め方ならいいと思う。

【委員】

3案を常にフラットに検討していくべき。現地存続は危険だというが、自分は必ずしもそうではないと思う。完全に安全とは言いきれないが、どのような時にどの程度の危険があるのかを再認識するべき。大地震や豪雨が無い限りはこの先50年、100年は大丈夫だと思う。

【委員】

豪雨はある。

【委員】

豪雨は確にある、大地震も可能性はある。ただ、岡谷小だけが危険だから廃校という議論はおかしい。3案を比較検討するべき。

【委員】

若いお母さん方の多くは、早く決めてほしいと言っている。展開を早めるべき。このままでは、お母さん方の不安が増すばかり。今まで、1つのことで半年もかかっている。次のことにまた半年、その次のこともまた半年かけるのか。そこで、次の段階に進むにあたり、1つの案に対しておおよそ2〜3回くらいで検討して、最後に比較検討するというのはいかがか。これは若いお母さん方の意見を代弁している。お願いしたい。

【委員長】

本日欠席されている委員の一人からコメントを頂いているので、読ませていただく。
「今までの現地確認と地盤調査報告により、現地での存続対応は難しいと判断します。過去の歴史からも明らかな様に、どんな技術を駆使しても自然の力を超える事は難しいと思います。自然との調和と安定が大切です。地盤改良する事により、上層部の地盤の全体的な荷重増加等々で、その下の水みち、さらに下の地盤との関係から地滑りが起こりやすく成らないか心配です。内閣府の報告でも2000年代に入り自然災害の発生が以前の約2.5倍の率で発生しているとの告示がありました。近代の記憶や経験にとらわれる事なく、次代をになう子供達の安全、安心な学びの場としての環境を思い、次のステップに進む事を望みます。そして、跡地に対しては盛土の除去などの保全と防災体制の確立を早く進めてゆくべきです。以上が私の考えです。」

今後の進め方について、委員さんお一人ずつ意見を聞きたい。

【委員】

その前によろしいか。アンケートに戻るが、現地存続を望む61名の理由が分かれば教えてほしい。

【委員】

主な理由は、自然環境が良い学校で子どもが育ってもらいたいというもの。このことは、他校とは違うところ。移転したら、それが無くなってしまう。

【委員長】

今後の進め方になるが、ワーキンググループに参加してもらう方法はいかがか。

【委員】

例えば、同時並行で3つのグループに分け、現地存続・移転・統合分散をそれぞれ検討するという方法。スピードが増す。

【委員長】

この方法についていかがか。

【委員】

今は統合分散についての議論は不要だと思う。今はとりあえず、市から移転案について

聞きたい。それからでもよいのでは。

【委員】

同意見。統合分散の検討は不要だと思う。まずは、移転について市がどのような検討をしてきたのか説明を聞きたい。

(3) 第4回までのまとめと今後の進め方について

【委員長】

市の方で、移転についてどのような検討をしてきたのか説明をお願いします。

【事務局】

移転の話に入る前に、前段ご説明することをお許し頂きたいと思います。

今後の岡谷小学校のあり方につきまして、これまで3つの案が考えられるとお答えしてきました。それが移転、統合、分散の3案ですが、ここで改めて私どもが考えている3案についての、定義・考え方をお示ししたいと思います。

【移転】

これは、新たな場所に岡谷小学校を移転・新築することです。

【統合】

2つ以上の学校がそれぞれの学校の歴史を継承し、ひとつの学校になることです。この場合、すべての学校のすべての児童が、ひとつの学校に通うというものですが、しかしながら、地域の実情(例えば通学距離等)を考慮し、ある程度まとまった地域で、統合校とは別の学校を選択し通うことも、可能であると考えています。統合と選択の組み合わせというようなイメージをしていただきたいと思います。

【分散】

言葉的に「散り散り」になってしまうイメージがありますが、ひとつの学校に通う児童が、ある程度まとまった地域で学校を選択し、複数の学校に分かれ通学するものです。

以上、私どもが考える移転、統合、分散の考え方を述べさせていただきましたが、これに限らず、委員さん方からも、ご提案をいただければありがたいと考えております。

【移転について】

資料につきましては岡谷小学校周辺位置図、検討資料を用意いたしました。周辺位置図は岡谷小学校と概ね近隣の小学校が入る1/12,000の平面図です。赤い点線が通学区となります。

移転用地として考えられる土地としては、公共用地であり、建物が建っていない土地となります。現在、土地用途が定まり利用されている土地は除きます。岡谷小学校周辺位置図をご覧ください。そうしますと、2箇所の土地があり、1として駅南の都市計画駐車場用地を主とした土地、2として中央町のイルフプラザ平面駐車場の土地となります。

最初に、岡谷小学校の移転に必要な面積はどの位か、ということについてご説明します。岡谷小学校移転検討資料をご覧ください。上の「移転に必要な機能と適正規模」という四

角に囲まれた中をご覧ください。まず、上段の表、児童数の見込みですが、本年の 5 月 1 日現在で、平成 31 年までは表の通りとなっています。平成 27、28 年度に 280 人となっています。そこから余裕をみて児童数を 290 人とし、普通学級は 12、今後必要となる特別支援学級を 2 学級見込み、これを岡谷小学校の適正な規模としています。

その下段の表ですが、今の適正規模から必要な個々の機能の室数と施設の数进行想定し、その面積を積み上げて、どの位の敷地面積が必要かまとめています。左側の網掛けをした「移転後」という列が、移転に必要な面積を算出した部分です。必要な個々の機能ですが、教室は普通教室 12、特別支援教室 2、少人数教室 3 となります。特別教室及び準備室というのは、理科室、音楽室、図工室、家庭科室、パソコン室、図書室、集会室、多目的室、各準備室等で 13 室。事務室等は、保健室、校長室、職員室、放送室、更衣室等で 8 室。その他は、給食室、昇降口、廊下、トイレ、雑庫など、となります。

建築延べ面積として算出しているのはここまでですが、例えば普通教室ですと 1 室 80 m²、特別支援教室 1 室 100 m²といった具合に面積を積み上げています。そうしますと表示はしてありませんが、教室 1,400 m²、特別教室及び準備室 1,280 m²、事務室等 460 m²、その他 1,990 m²となり、合計すると建築延べ面積として 5,130 m²となりますが、これを約 5,000 m²としています。

この建築延べ面積については、比較する資料として、まず真ん中の列の「現岡谷小学校」の面積ですが 6,558 m²となっています。約 1,500 m²少ない、児童数に応じた、より適正な規模になっています。また、最近同規模の小学校として新築された諏訪の小学校が 5,614 m²となっており、それと比較しても過大ではありません。更に、右側に国の法令に基づく、学級数に応じた必要面積の算出において、岡谷小学校を当てはめる 5,200 m²となり、それ以下の設定は基準的にも適正であることから、移転後に必要な建築延べ面積を 5,000 m²と設定しました。

次に運動場等の面積は現在体育館が 2 棟ありますが、これを 1 棟とし、敷地面積として 2,000 m²とします。屋外運動場としては、現岡谷小学校の敷地面積は約 6,300 m²ですが、校庭のみの面積は約 4,600 m²と他の小学校に比較しても狭いことから、移転に必要な校庭面積は 4,600 m²とします。また、プール敷地として 1,000 m²とします。体育館、校庭、プールの運動場等につきましては、特に校庭について、「岡谷小学校周辺位置図」をご覧ください、その上にある、「学校規模基本データ」という表をご覧くださいと思います。建築延べ面積の 5,000 m²は、階層建てとすることが可能となりますし、敷地的には建ぺい率、容積率、日影規制等の法令上の制限が加わり、必要な建築敷地面積を想定するのは非常に難しいわけですが、市内 8 小学校の建築敷地面積に対する建築延べ床面積の割合を算出しますと、基本データの表中、中程の行に割合がありますが、その中で一番割合が高い数値が、小井川小学校の 84.4%となっています。これが一番、密に建物が配置されている事例でありますので、この数値を使い、5,000 m²の建物に対し、教育環境が保たれる移転後の敷地面積を約 5,900 m²としました。これは駐車場等も含まれた面積となります。

検討資料に戻っていただき、これらを足し、約 13,500 m²を移転後に必要な敷地面積としました。この面積につきましては、もう一度周辺位置図の「学校基本データ」をご覧くださいと思います。現在の 8 小学校の敷地面積（平坦部分の面積）が 2 行目に載っていますが、約 15,600 m²～25,000 m²となっています。13,500 m²という面積は、小学校として決して広い面積ではありません。

こうした内容を踏まえまして検討いたしました。周辺位置図と検討資料の両方をご覧くださいと思います。

【以下、①駅南土地と②中央町地区の検証内容】

① 駅南土地

- ・面積：約 7,100 m²
- ・都市計画用途地域 商業地域

【検証】

- ・面積・・・必要な機能をレイアウトしていくには面積が狭小であります。
- ・現在の土地利用と考え方

この土地は岡谷駅南地区土地区画整理事業により生み出された土地となります。

駅南地区につきましては、まちの顔、交通拠点という位置付けと、人々が出会い、交流することのできる魅力的ある都市空間を創出したいという将来像を描いてまいりました。過去には「定住交流拠点」の創出を目指した公共施設機能として生涯学習センター・総合福祉センターによる複合館構想、また新病院建設の候補地の 1 つになった経緯もありますが、民間活力の導入により賑わいを創出する拠点整備を促進するために、昨年度、早期に売却できる区画を設定し、商業地域において、まちづくりに貢献できる公益的都市機能、交通結末点としての立地を活かした、まちの魅力を高める交流拠点、多様な目的で人が集まり、活動できる複合的で多目的な拠点機能、といった基本条件を付し、民間に売却しています。現在公共用地としてある約 7,100 m²の土地は、駅に必要なターミナル機能として、駅利用者の利便性を高めるためのパーク＆ライド駐車場（約 100 台）、また、月極め駐車場として約 100 台として利用しています。また、7,100 m²の内、約 5,300 m²が都市計画駐車場として、都市計画法に基づいた区域の決定がされた土地となります。

この土地につきましては、駅南地区の考え方に基づき、既に売却をした区画と同様に、まちの活性化や賑わいの創出といった観点から、民間活力を導入した土地活用に、取り組むべき地区と考えています。こうしたことから、子ども達が日々通う公立小学校を配置するということは、土地利用的にどうかと考えています。特急が停車する駅としての立地を活かした活性化を図っていく、という方針は岡谷市全体の課題であると考えています。

位置的には田中小学校、湊小学校、川岸小学校の通学区と接する位置となります。

②中央町地区

- ・面積：約 7,800 m²

・都市計画用途地域 商業地域

【検証】

・面積・・・必要な機能をレイアウトしていくには面積が狭小であります。

・現在の土地利用と考え方

敷地の中に旧山一林組製糸事務所がある。国登録有形文化財であり、国の近代化産業遺産群の1つとして認定された施設となります。1Fが岡谷絹工房、2Fがイベントルームとして活用されていますが、この建物の移転は非現実的な状況であります。広場全体としてはイルフプラザの平面駐車場として日々、利用されている。

また、太鼓祭りのメイン会場として定着しているほか、岡谷フェスタや農業祭などのイベント会場として活用しています。現在、中心市街地の活性化に資する土地利用が図られている。

位置的には田中小学校通学区の隣接地となります。

市では、岡谷小学校の移転場所として、岡谷小学校通学区内に学校敷地として成り得る場所の確保は非常に難しいとお答えさせていただいておりますが、今申し上げました内容がその経過になります。

【委員長】

今の説明に対して質問・意見はありますか。

【委員】

いつ検討したのか。

【事務局】

移転の候補地が無いという説明をさせていただいているが、その発表前に検討してきた。今回資料として提出するにあたり、ここでこのようにまとめたものである。

【委員】

今年3月初めの時点では、検討されていたということでよい。

【事務局】

そうです。ただ、その時点ではここまで具体的な検討はしていない。

【委員】

3月の発表の時から、移転先があるのか疑問だった。さきほど移転先の説明があったが、いろいろな問題があつて移転も無理だということなら、あり方検討委員会は本当に必要なのか。土地の面積が狭いからだめですでは、検討の余地がない。

【委員】

狭くても移転を希望するのか。

【委員】

移転を希望する保護者の多くは、規模は小さくてもよいと思っている。

【委員】

自然は無くなるが。

【委員】

自然が無くなることは仕方がない。

【委員長】

民地を取得するには相手の協力が必要になり、時間がかかることになる。先ほどのアンケートに検討してほしい場所がいくつかあったが、何か意見はありますか。

【委員】

アンケートでは、ララおかやの2、3階を校舎にして、駅南を校庭にしてはどうか、または、イルフプラザの3、4階を校舎にして、駐車場を校庭にしてはどうか、というイメージだと思う。

【委員長】

その辺りは自分たちの希望で議論はできるが、市は難しいと答えると思う。

【委員】

イルフの駐車場は、八十二銀行が移転するので使える可能性があるのかなと思う。時間がかかると思うが。

【委員】

イルフプラザの駐車場の利用はどうするのか。

【委員長】

そのような問題も出てくる。学校の建築は土地収用法の対象事業になるか。

【事務局】

確認させていただくが、いずれにしても、そこまでやるケースはおそらく無いのではな
いか。

【委員長】

ワーキンググループで検討するにあたって、例えば通学路が変わることによって、通学路の安全対策をどうするのかといったことについて議論していただきたいと考えている。

【委員】

通学路の話になったが、間下区は北部中、新屋敷区は南部中、岡谷区は西部中に分かれる。神明小に近い間下区の子どもが駅南まで通うには遠い。

【委員】

道路も危険なところがある。

【委員長】

考えれば考えるほど課題が出てくる。

何か意見ありますか。

(なし)

ワーキンググループをつくり、希望するグループに入って議論を深めるということによって
よろしいか。

【委員】

もし移転になれば、通学区の見直しが必要になる。新入生は最初からこの学校に通うとか、5年生は新しく学校ができて卒業するまでは同じ学校に通うとか、そのようなことはできるのか。

【委員長】

岡谷市は行きたい学校に通えるのか。

【事務局】

現状、理由が妥当な場合には学区外通学が認められているケースもあるので、その辺りはご相談いただきたい。

【委員】

統合分散の話に変わってしまったが、今日は移転の話を聞きたいし、質問したいこともある。ワーキンググループの話はみんなが承認していない。今日は移転の話をさせていただきますか。お聞きしたいが、周りの民地を買い上げる可能性はあるか。また、先ほど旧山一事務所の移転は不可能という話があったが、最初からそのような話をするべきではないと思う。

【委員長】

民地の買収は相手の協力がなければ難しいので不確定要素が大きい。

【事務局】

民地買収という考え方は当然出てくると思う。ただし、駅南の土地については、立地を活かして、民間活力を導入してにぎわいを創出することが市の考え方である。土地利用として、公立の学校敷地として相応しいかどうかの判断がされなければ、民地買収の話にはならないと考えている。また、人様の土地について、いたずらに買収の話をするとは時期尚早であると考えている。

【事務局】

今のような話を4月の間下区の説明会でお話したが、今の時点で、市が人様の土地の上に勝手に印をつけてこの土地はどうでしょうか、というような話をすることは無理であることをまずご理解いただきたい。まとまった土地がないので、区画整理等をして敷地を生み出していくという方法は方法論とすればあるだろうが、10年、15年かかる話になるので、地域の皆さんの合意を得た上で、30年、40年先の将来を見据えたまちづくりとしての話だと考えている。なかなか画期的な方法で結果を出すことは難しいと考えている。

【委員】

岡谷区は岡谷区対策委員会を立ち上げ、市に公開質問状を出した。岡谷区は現地存続を望んでいる。市から調査資料の提供を受けて、岡谷区独自で専門の先生に話を聞いたところ、専門家からは盛土を半分くらい取り除いて押え盛土をすればよいとの話だった。岡谷区としては、改良工事を行えば現地存続が可能であると判断している。あり方検討委

員会では、移転案も同時進行で進めてほしいという話が出ているが、地質学的、土木工学的に改良を施せば、現地存続はかなり有効な考え方であると思う。専門家からは、取り付け道路は、間下区側からではなく岡谷区側から作ってはどうかという話だった。確定的なことではないが、防災道路の取り付けについては補助金が出ると聞いている。現地存続以外の、移転・統合分散を同時進行で進めてほしいという話があるが、その前に検討してほしい。

【委員長】

今の件について。

【事務局】

どなたのご意見かは分からないが、良いとか悪いとかは言えない。

【委員】

土木工学の専門家から話を聞いた。11 月には、地滑りについての専門家の意見を聞くことになっている。

【事務局】

危険性の判断や可能性のことは難しい。実際に現地の周辺環境も踏まえて、対策工事が可能かどうかについても慎重に検討してきた。責任の所在が重要であるので、市は慎重に進めてきた。

【委員】

今回の件は、ただ岡谷小学校が移転や分散すれば終わりではなく、地域住民に対する安全対策がある。地域住民のこともセットで考えてほしい。

【委員長】

次回からはどのように進めたらよいか。時間がかかっているという意見もある。現地存続・移転・統合分散の 3 つのグループを立ち上げて、委員の皆さんで検討する形で進めたいと思うがいかがか。

【委員】

次回の委員会はいつやるのか。

【事務局】

11 月中を予定している。

【委員】

ワーキンググループは 3 つではなく、現地存続と移転の 2 つでいいのでは。

【委員長】

時間がかかるので、並行して進めようというのがワーキンググループの手法。

【委員】

スピードアップも大事だが、3 つのグループに分けて検討してもどうなのかと思う。

【委員長】

やってみないと分からないが、いろいろな意見を出してもらおう。

【委員】

意見を出してどうするのか。

【委員長】

このような問題があるので現実的でないとか、このような問題があるのでどうすればよいか、というような検討をフリートーキングで行う。

【委員】

統合分散のグループは何を検討するのか。

【委員長】

通学路の安全対策などがある。

【委員】

お母さん方は、統合分散になれば自分の子どもがどこの学校に通うのかが一番気になっていると思う。通学距離が遠くなればバスを出してほしいとか、そのような意見を吸い上げることができるのではないかな。

【委員】

それぞれ3つのグループで意見を言いたい。

【委員長】

3つのグループでそれぞれ意見をまとめた後で、みんなで3案を比較検討していく。

【委員】

誰が進行するのか。

【委員長】

どのような形にするかはまだ決めかねているが、識者がある程度進行役を行うと考えている。

【委員】

識者の先生方が主になるのか。

【委員】

市民の方が主になる。あり方検討委員会のあり方として。

【委員】

分散のグループは不要ではないかな。

【委員】

ワーキンググループは何回行うのか。

【委員長】

例えば1時間15分くらいでグループ検討し、その後に発表してもらおう。2回くらい行う。

【委員】

違うグループにも入れるのか。

【委員長】

最初に選んで決めたグループのみ。

【委員】

今の段階では、分散を検討する必要はない。ワーキンググループは現地存続と移転の 2 つでよい。

【委員長】

市民説明会で、早く自分の子どもがどこの学校に通うのか知りたいという強い要望がある。

【委員】

市から消極的な資料をもらって検討しても、大した検討にならない。

【委員】

説明会に出席して、市民の中で温度差があることを痛感した。岡谷区の方の思いはよく分かるが、他の区の方には通用しない。その点から、統合分散の意見を取り込む必要がある。他の区の方からすると、一番お金のかからない方法でやってほしいと思うのでは。

【委員】

それは違う。私はもし神明小が無くなるという話になれば、ちょっと待ってくれと思う。

【委員】

それは市民の中で温度差があると思う。仮に現地存続という判断になり多額のお金を使うという方針になった時に、他の区の方からは当然意見が出る。

【委員】

そうであれば、岡谷市は子どもに対して優しくない市ということになる。

【委員】

他の区の方の意見も聞かないといけない。

【委員】

子どもにお金をかけられないということか。

【委員】

そういうことではないと思う。政治の問題もある。

【委員】

教育長に聞きたい。岡谷市は子どもにお金をかける市ですか。

【委員】

必要なことにお金をかけることは当然のこと。

【委員】

教育長として、岡谷小を残すことは必要と考えているか。

【委員】

どこの学校も残したい。まず一番考えなければいけないのは、子どもの安全の確保だ。説明会では、子ども不在の議論になっていることが本当に切ない。立場上、その場で何も

意見が言えなかったが、ワーキンググループでは意見を言いたいと考えている。識見者の委員には、教育の専門家もいる。県内でも統廃合の事例がある。様々な話を聞くなかで、良いものを探していく。大小の視野で物事を考えていくバランスが必要。今まで発言ができていない委員もいるので、ワーキンググループでいろいろな意見を出し合い、作り出していく場となればよいと考えている。

【委員】

そういうことではない。

【委員】

教育委員会はお金を握っていない。いくら以上は出せません、というようなことを言うことはできない。

【委員】

岡谷市は子どもにお金をかけていることを他の市町村に見せてほしい。

【委員】

この場は一体いくらお金をかけるかを議論する場ではない。子どもたちをどう育てていくかが大人の責任だ。

【委員】

岡谷小を分散させることが一番お金のかからない方法だというのは分かるが、それでいいのかと言いたい。

【委員長】

子どもの安全を考えて議論していきたい。

【委員】

南校舎から北校舎へ移った方がいいという話があったが、その話はどうなったか。

【事務局】

学校と相談をしたが、北校舎の空き教室に押し込むようなことは難しく、またトイレの問題等もある。今、何とか南校舎の安全対策を取る方法がないかを検討している。そのようなことが可能であれば、すぐに対応したいと考えている。

【委員】

南校舎から北校舎への移動の話は、この委員会で議論する問題ではない。学校の運営上の問題は、学校と教育委員会の問題である。違うことを話し合いたい。

【委員長】

次回からは、ワーキンググループを作って話し合っていきたいと思う。後日、市からグループ分けの照会をしてもらう。

【委員】

話は変わるが、8月15日の豪雨で、岡谷小周辺にどのくらい雨が降ったのかと、地面の動きに変化があったのかを知りたい。

【調査業者】

毎月岡谷市にデータ結果を報告している。結果的に、はっきりとした変状は表れなかった。雨水の排水工事の効果があつた。地盤が動いているという数字は検出されていない。

【委員】

H18年の豪雨災害時の雨量と比較できるか。

【事務局】

当時は雨量計が設置されていなかったなので分からないが、かなりの雨が降っていた。

【事務局】

当時の限られた場所しか雨量の確認ができないが、比較できるものがあるか確認したい。

【委員】

岡谷小と神明小の通学区の境に一部間違いがある。

【事務局】

訂正する。

【委員長】

他に何かありますか。

(なし)

なければ、以上で本日の検討委員会を終了します。

閉会 午後 10 時 00 分